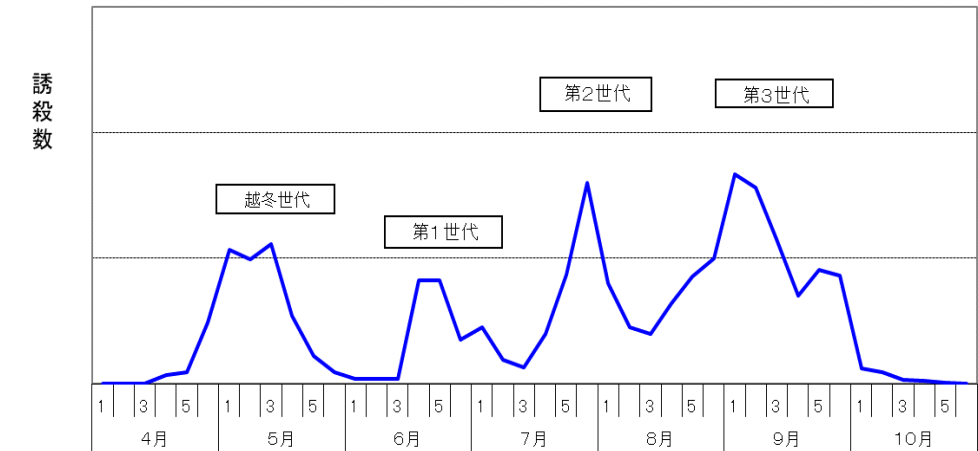


スモモヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺消長〔令和8年(2026年)調査〕

病害虫防除部

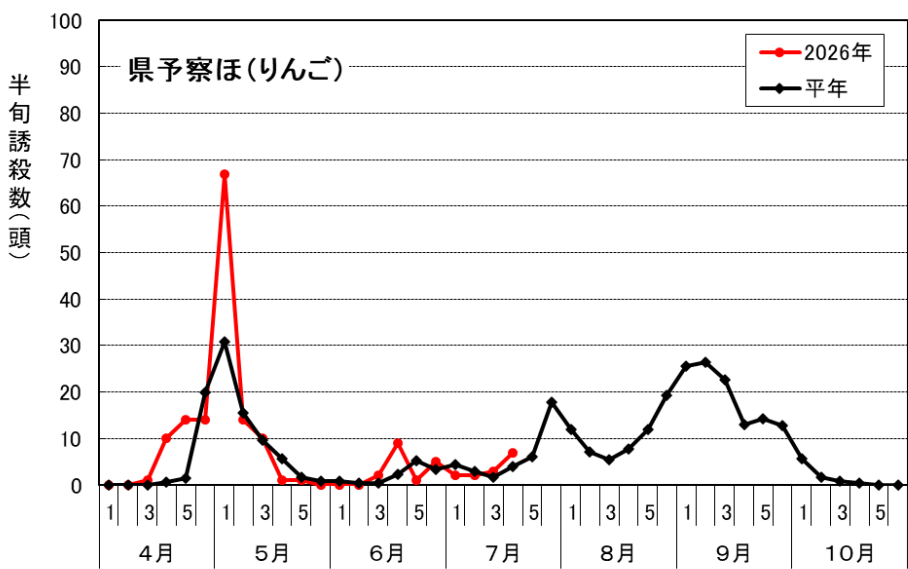
過去 10 年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年3～4回発生する。
- ・越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬、第1世代成虫は6月下旬～7月上旬、第2世代成虫は7月下旬～8月上旬、第3世代成虫は9月上旬に発生する。
- ・日本すももは、第1世代、第2世代の卵及びふ化幼虫の防除を行う。
- ・防除適期はそれぞれ5月上旬～6月上旬、6月下旬～7月中旬であり、10～14日間隔で防除する。
- ・りんごは、第3世代の卵及びふ化幼虫を対象に、8月中旬頃から5～7日間隔で防除する。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



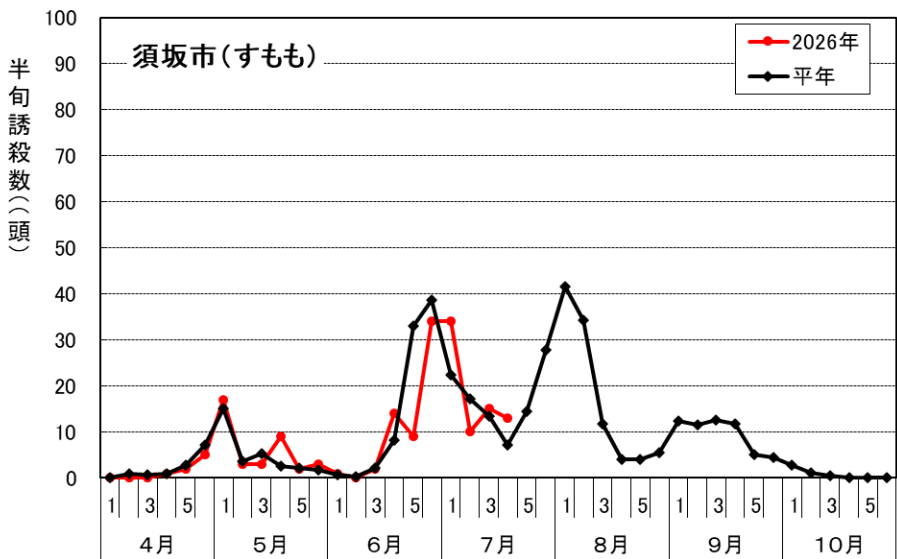
【調査地点】（標高約 350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・本地点の第1世代成虫の誘殺は、平年越冬世代成虫より少ないのが特徴であるが、本年も6月の誘殺があまり多くなく、第1世代成虫の誘殺は他の地点より少ない。
- ・7月第4半旬に入り、第2世代成虫の誘殺と思われる、増加の兆しがみられている。

○須坂市（病害虫防除部）



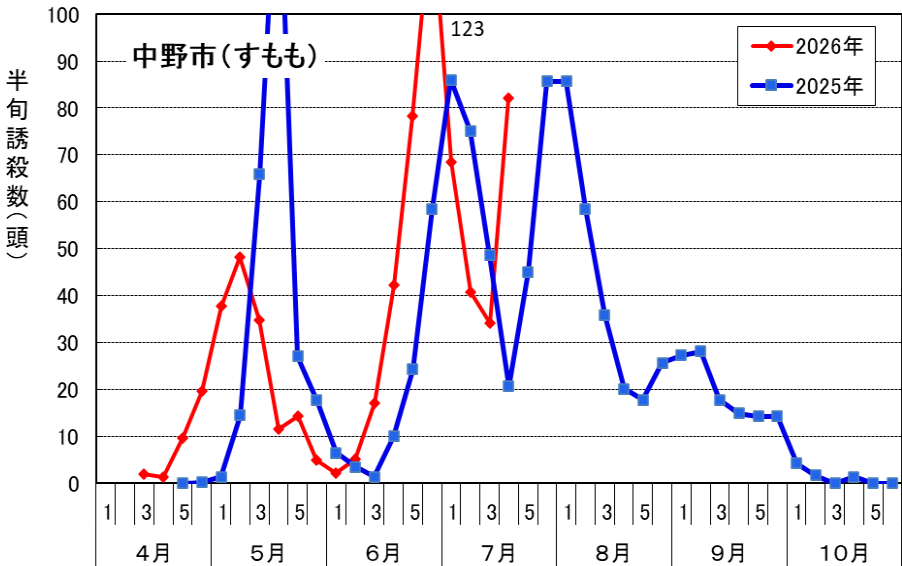
【調査地点】（標高約 370m）

- ・須坂市（日本すももほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・第1世代成虫の誘殺ピークは、平年と同じ6月第6半旬にみられた。ピーク時の誘殺頭数も、平年とほぼ同じであった。
- ・誘殺数は平年とほぼ同じであるが、昨年の同時期と比べると少なくなっている。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約 350m）

- ・中野市（日本すももほ場）
- ・2024年より設置のため、平年値なし。

【コメント】

- ・発生消長の波がかなり大きいことが、すもも畑である本地点の特徴となっている。
- ・越冬世代成虫の誘殺が終了した6月第1半旬には2頭ほどであった数が、第1世代成虫の誘殺が始まるとともに急激に増加し始め、6月第6半旬には120頭を記録している。
- ・7月に入り減少していたが、第4半旬になり、第2世代成虫と思われる誘殺がはじまり、誘殺数が増加している。